

蓄積したデータを学生サポートに活かす

～無気力学生・退学者を出さないための
サポートを教職協働で行う～

E班6グループ
2009年7月8日

1. 課題・テーマ設定理由

無気力学生および退学者が増加傾向
＋
教職協働での学生へのサポートの必要性

情報技術の活用

「蓄積したデータを学生サポートに
活かす診断書(Web)を作成」

2. 提案

(1) 無気力学生・退学者とは…?

- ・不本意入学
 - ・やりたいことが見つからない
 - ・履修登録などガイダンス(オリエンテーション)時期に波に乗り切れなかった
 - ・単位取得数が少ない
-

2. 提案

(2) まず何をすべきか？

無気力学生・退学者の予備軍を
早期発見する！！



2. 提案

(3) ITをどんな場面で活用するか？

① 早期発見

…ITを使って発見の仕組みを実現



② 学生指導

…教職員間で学生の情報を共有するためにITを利用する。(指導は対面で直接行う)

2. 提案

(4) データを使った学生サポート

A大学

文理総合大学

学部: 7学部

学生数: 1万人



2. 提案

①無気力学生・退学者予備軍の早期発見

→a～fのデータから、条件を指定して指導対象者を抽出する。
→予備軍を洗い出すためのワーニングを出す仕組み

- a. **授業への出席状況の把握**・・・出欠管理(授業担当教員・教務)
- b. **単位取得状況の把握**・・・成績データ・授業データ(教務)
- c. **履修状況の把握**・・・履修データ(教務)
- d. **卒業見込み・進級判定**・・・履修・成績データ(教務)
- e. **出身高校での学生の状況**・・・入試・出身校データ:(入試・教務)
- f. **施設利用状況の把握**・・・図書館入館ゲートの記録(図書館)

2. 提案

②学生指導のためのIT利用

⇒**診断書(Web)の作成**

教職員間で指導を行う学生の情報を共有する(教職協働)

- ・ 学生支援を専門に行う部署(学生支援センター)で、**学生一人ひとりの診断書**を作成・管理し、学生指導に活用する。
- ・ 診断書には、**学生の基本情報や単位取得情報、担当教員からのコメント**などを記載する。
- ・ 入力内容は**履歴管理**を行い、**常時更新可能**とし、入学から卒業までの学生指導の履歴を管理する。
- ・ 指導対象の学生については、**診断書を保護者にも送付**する。
- ・ 診断書の二次利用(**過去の事例を指導に活用可能**とする)

2. 提案

②学生指導のためのIT利用

⇒教職員カルテ・コミュニティサイト (SNSなど)の構築

- ・学生指導の際に適任の職員(趣味・顧問等様々な視点で)を探すために、教職員の情報を管理し、教職員間で閲覧可能とする。
 - ・ただし、個人情報保護の観点から管理する情報・閲覧する権限などは検討が必要。
-

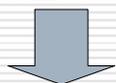
3. まとめ

【課題】

無気力学生および退学者が増加傾向

【解決方法】

診断書(Web)



蓄積されたデータの活用
早期発見・教職協働

ご清聴ありがとうございました。
